

## 個人研修報告 in Denmark

社会福祉法人飛鳥学院 児童養護施設飛鳥学院  
児童指導員 竹島隆二

私はノンフンスホイスコーレにて合同研修を行った後も、個人研修で引き続きデンマークに滞在し研修を行った。前半は大都市のコペンハーゲンにて、後半は郊外のボーゲンセに戻りホームステイをさせて頂くことで様々な事を感じることができた。

◎コペンハーゲン (4月27日～5月2日)

### 1. Borne-og Familiehuset Arild 「児童と家族の家 アルイルド」

この施設は、日本で言う児童養護施設と母子寮がくっついたような施設である。子どものみ入所するエリアが1階で、母子で入所するエリアが2階である。子どもは9人、母子は9家庭が定員。子どもの年齢は0歳～8歳と低学齢児を受け入れる施設として特化している。スタッフは全部で70名ほどおり、母子支援、子ども支援、地域・里親支援、アフターケア、特定妊婦支援、通告対応等といった様々なセクションに分かれて支援体制をとっている。入所の原因の多くは母子の場合は保護者が何らかの依存症（薬物やアルコール）、統合失調症、被虐待経験のあるとのこと。子どもの入所についてはほとんどの場合、発達に遅れがあり、育てにくさから家庭で十分に愛情を受けられず暴力を受けたり、ネグレクト状態であった子だ。その為、支援はかなり困難な事が多いが様々なエビデンスを基にケア方法を組み合わせているとのこと。



### 2. Josephine Schneiders Bornehjem 「児童養護施設」

デンマークにおいてはこの100年間、社会的養護率はほぼ横ばいで、対象年齢児童の約1%が施設や里親といった社会的養護を受けている。デンマークにおいてはコミュン（いわゆる市）が非常に危機感を持って危険な家庭をチェックする仕組みができていますので、最悪の状態になる前に早い段階で対応し、社会的養護が必要な児童が早期に利用できていると感じた。移民が多いこともあり家庭に問題があり子どもにとっては不適切な養育から早期に安全で安心した暮らしが受けれるというセフティーネットの役割を大きく果たしている感じた。

施設長のPeter（ピーター）さんに、職員育成やチームワークについて尋ねたところ、単純に父母が仲良く明るい雰囲気の家は子どもも元気に育つので、スタッフ間の雰囲気を良くすることは施設長としても配慮しており、常にオープンな態度でスタッフの話を聞いたり摩擦が生じかけているところに気を配り早期に介入していると話していたのがとても印象的だった。



皆の集うリビングは常に整理整頓



バーベキューテラス

ボーゲンセ (5月2日～5月11日)

**3. Dennis Kruse さん 「里親(Foster care)」**

ボーゲンセで里親をされているデニスさんにインタビューをさせて頂く。今預かっている里子は2人で女の子の双子で生後4か月～預かり現在は8歳である。様々な状況が重なり養育にはかなりのスキルが必要と判断し里子となった。夫婦はお互いPTやSTの資格を持っており、それにより里親のカテゴリーズとしてはかなり養育能力の高い里親に分類されている。デンマークでは3段階で里親を分類しておりダニエルさんはそのトップクラスに分類される里親である。この場合、かなりダメージを受けた里子や、十分な支援が必要な里子を預かるケースが多い。また、里親になるきっかけや、申請してからなるまでのプロセスなども聞かせて頂いた。

中でも印象的だったのは実親との関わりである。デンマークでは実親、育ての親の区別ははっきりしており、生後間もなく預かっていたとしても物心つく時には里親であることを伝える(いわゆる告知)。そして、基本的には実親ともしっかりコミュニケーションをとり、実親や親戚もみんなで誕生日や入学式などお祝いをする。思春期に向けて様々な事が想定できるのでそれについてもしっかり説明できるように事前にアプローチし対応を行っている。下手な隠し事はせず、純粹にみんながあなたを大切に思っているということを伝える方が大事と考えていると話されているのが非常にわかりやすく説得力があった。

**4. Opholdsstedet I Bogense 「STU フリースクール」**

この施設は合同研修で視察させて頂いた「STU」(合同研修報告書参照)と同じ種別の施設であったが、ここは入所型でデンマーク国内でもSTUの入所型は数少なくそのうちの1つだ。生活の場に学校が併設している形で、建物はそこまで大きくはないが敷地面積は非常に広大で畑や森林、遊びスペース、ヒュッテスペース等自然に囲まれている。青少年対象である為、入所年齢は青少年と言われるだいたい12歳から25歳くらいで、定員は22名。現在12歳～23歳の青少年が14人入所している。通所も利用可能で現在2名の青少年が自宅からこの施設の学校に通っている。ケースとしては犯罪行為を起こした者、ASD、ADHD、性的虐待、愛着障害、自傷行為など様々な問題を本人や家庭に抱えている子ばかりで、コミュニケーション関係なく全国から入所の依頼がある。犯罪行為を犯した者は「UKN=青少年犯罪対応機関」と呼ばれる、日本で言うところの保護観察所や保護司の役割果たす機関と連携し、特別なルールを設定し生活をさせることもある(例えば外出時間や学校のプログラム等)とのこと。生活を見る、学校教育を行う、実習や、仕事へのフォローもすることが必要で、個々の職員の知識やスキルはかなり要求されることが想像できた。



ダイニングには薪ストーブ



学校のヒストリー

# 番外編

## ●デンマークにて大人の社会科見学

→児童に携わる者としては外せない「LEGO 本社」と「アンテルセンの地」



アンテルセンの生家

## ●デンマークでの最高の通訳者と最強の HOMESTAY 先



通訳者 SIGE さん☆



ホストファミリーベンツ夫妻♥



通訳者 KYOKO さん★



LOVE MUSIC ♪